

【普通科】 2年次 【必修・選択】 科目「作品講読」授業のシラバス

1 概要

教科名	国語	科目名	作品講読	単位数(コマ数)	2単位(78コマ)
科目の目標	国語総合で学習した内容を踏まえて、近代以降の文学的文章を中心に据え、様々な文章を読解する。その中で社会生活に生きる教養を深め、考える力を養う。				
教科書(出版社)		副教材(出版社)	高校生のための近現代文学ベーシック ちくま小説入門(筑摩書房) パスワード級別漢字(浜島書店) 高校生必修語彙ノート 改訂版(桐原書店) ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)		

2 学習の方法

(1) 予習について

まず、文学的文章は何度もくり返し読むことで、文体や表現のリズムを味わうことができます。新しい発見や理解の深まりも得られます。授業で取り扱う作品は事前に三回は読んでおきましょう。次に、語句調べは読解力の向上には欠かせません。文学的文章を読み味わうために、幅広い語彙を身につけ、豊かな表現力を読み味わう基礎力を身につけましょう。よりよく生きるために、様々な人生の場面を、様々な立場から描き出す文学は、思考力の幅をも広げ、自分自身の表現力を高め、現代社会やそこで生きる他者への理解力も身につけることができるでしょう。最後に、毎時間漢字テストがありますので、テスト範囲を予習してください。

(2) 授業について

国語は、みなさんが普段使っている日本語で勉強する教科です。しかし、文学的文章を扱うこの授業では、ときに日頃は見聞きすることのない語彙や表現にも出会います。国語総合で学んだことを活かしながら、より幅広い作品を読み味わいましょう。「作者は何を私たちに訴えているのか。」「何を知らせようとしているのか。」「何を分かってもらおうとしているのか。」などを理解する力、つまり「読解力」をさらに高めることができます。また、グループワークや発表などの活動を通じて、お互いの読解の過程を学び合い、作品の解釈を共有していきます。そこでは、話し合いのスキルや、人の話を聞いてメモを取ったり、要点をまとめたりするスキル、自分の考えを人に伝えるスキルなど、様々なコミュニケーションスキルが身につけられます。積極的に参加してください。

1時間、1時間の授業を大切にしましょう。無駄な勉強は一つもありません。自分という人間を豊かにするために日々学び、日々成長しましょう。

(3) 復習について

週に2時間しかない授業ですので、勉強している内容を忘れないためにも復習はもちろん大切ですが、もっと大切なことは国語の勉強を通して、授業で扱う様々な分野について、興味を引いた分野の文章を読んでみることです。授業を通して、読書の習慣を身につけることが、学力向上の一番の早道だと考えます。また、その日やった授業の流れを教科書やノートまたはプリントを見返しながら、頭の中で思い描いてみることも、知識を整理する上で、大切なことです。知識は整理され、統合する必要があります。以上のことから、勉強で最も大切なことは後始末をしっかりとやる、「復習」をすることだと言えます。

〈学習アドバイス〉

文学的文章は、教科書以外でも触れる機会が多いでしょう。国語の力は日常生活で養って行くことが大切だと思います。朝読書、新聞や雑誌の連載作品、原作付きの映画やテレビドラマなどを視聴して比較するのも面白いでしょう。あまり難しく考えずに、様々な「物語」、色々な「ものの見方・考え方」を知りましょう。その経験を通じて語彙力を高め、表現力を豊かにしていくことで、将来、人生をより深く、多角的に理解する能力が身につきます。また、話し合いや発表の機会が多く、正解のない問題に取り組むことも多いです。日頃から、自分の言葉が相手に伝わっているのか、自分は相手の言葉を理解できているか、意識しましょう。そして、常に新しい、面白い表現を吸収し、より分かりやすい言い方を学んで、使ってみるようにしましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	日本語や言語文化に対する関心を高め、国語力の向上を図ることができたか。
② 話す聞く能力	筋道を立てて話したり、正確に人の話を聞き取ったりすることができたか。
③ 書く能力	目的に応じて、適切に文章を書くことができたか。
④ 読む能力	様々な文章を表現に即して正確に読み取ることができたか。
⑤ 知識・理解	表現と理解に必要な知識を身につけているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～⑤は「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料		定期考査・確認テスト 実力テスト	漢字テ スト	授業ノ ト・フリ ント	発問・指 名読み	読後感想 文	意見発 表・スピ ーチ	グルー プワ ーク
	割合								
① 関心・意欲・態度	20%			◎	◎	◎	◎	◎	◎
② 話す聞く能力	20%					◎		◎	◎
③ 書く能力	10%	○	単元で扱った語彙を用いて文章を作成する短文作成問題。				◎		○
④ 読む能力	30%	◎	単元の内容が正しく理解されているかどうかを問う読解問題。			◎	○		○
⑤ 知識・理解	20%	◎	単元で扱った国語の基礎的知識や理解力を問う漢字の書き取り、読み、意味を問う問題。	○		◎			○

〈担当者からのメッセージ〉

評価は日常の学習の取組がどのくらいできているかを判断します。提出物は日頃からしっかりと準備しておけば全員ができることです。そのような誰もができてをしっかりとできているかが評価の基本となりますので、日々の学習の取組をしっかりとしましょう。今やれることは今やる。決して後回しにしない気持ちをもって学習に取り組んでください。

【普通科】 2年次 【必修・選択】 科目「作品講読」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期	○小説の基礎 ・登場人物の心情の変化を読み取る 人物の設定を読み取る 心情表現の方法を学ぶ 人間関係、舞台、場面の影響を意識する	6	○小説の仕組み ・登場人物の心理的動きを理解し、象徴的な表現も含めて、正確に内容を読み取り、名文を味わう。	① ⑤ ④	小説の仕組みを理解できる。 小説の仕組みの知識を活用して、小説を読み味わうことができる。	漢字小テスト(毎時間)
5		8		② ③ ①	小説の読解について話し合う中で、話し合いの基本的な方法を身につけることができる。 読後感想文を通じて、適切な文章の書き方を身につけることができる。 以上のことに関心を持って意欲的に取り組むことができる。	
6	○小説の表現 ・表現技法の種類とその効果を意識して読む 人称の種類を知る 文体の種類を知る 台詞、地の文、心中思惟の違いを知る 比喩の種類と、その他の表現技法を知る	6	○語り、文体、台詞と地の文、比喩等の表現 ・様々な表現の特徴と校歌に注意しながら、本文の表現に則して内容を読み取り、人物の心情変化を読み味わう。	⑤ ④ ① ②	小説の表現を理解できる。 小説の表現の知識を活用して、小説を読み味わうことができる。	前期中間調査 ノート提出 漢字小テスト
7		8		③ ①	小説の読解について話し合う中で、話し合いの基本的な方法を定着させることができる。 読後感想文を通じて、適切な文章の書き方を定着させることができる。 以上のことに関心を持って意欲的に取り組むことができる。	
8	○小説の構成 ・主題と構成の意味と効果を意識して読む 主題を意識する 起承転結、序破急などの構成を知る クライマックス中心の構成を知る	4	○長さ、内容、主題、構成、山場などの小説の構造 ・小説の筋書きだけに囚われず、その構成について様々な視点で分析することで、作家の工夫や表現の方法を意識して作品を読み味わう。	⑤ ④ ② ③	小説の構成を理解できる。 小説の構成の知識を活用して、小説を読み味わうことができる。 小説の読解について、話し合いの内容をまとめて発表する方法や、聞く態度を身につけることができる。 読後感想文を通じて、考えの根拠を持って論理的に文章を書く方法を身につけることができる。	
9	エンディングの種類を知る	6		① ①	以上のことに関心を持って意欲的に取り組むことができる。	前期期末調査 ノート提出 漢字小テスト
後期	○様々な小説 ・出会いと関係の変化を追う ・差異と秘密が生む展開を整理する ・未知の世界を描く物語を読む	10	○小説のジャンルごとの特徴や代表作、代表的作者 ・様々なジャンルの小説を読み味わう。 ・他の人と読解や解釈について意見交換を行うことで、自身の思考の幅を広げる。	⑤ ④ ② ③ ① ①	様々な小説の特徴を理解し、文学的知識を身につけることができる。 これまでに学習した小説の知識を活用して、小説を読み味わうことができる。 小説の読解について、話し合いの内容をまとめて発表する方法や、聞く態度を定着させることができる。 読後感想文を通じて、考えの根拠を持って論理的に文章を書く方法を定着させることができる。 以上のことに関心を持って意欲的に取り組むことができる。	後期中間調査 漢字小テスト
11		10		① ①		
12	○様々な手法 ・語り手の役割を意識して作品を評価する ・自分らしさと向き合うための小説作品	6	○これまでの学習の振り返りと、活用 ・様々な小説を読み味わいながら、その表現や構成、語り方の工夫について分析し、評価する。 ・様々な登場人物、物語を通じて、自分らしさについて考え、話し合うことで文学的文章の意義を理解する。	⑤ ④ ② ③ ①	様々な小説の手法について振り返り、知識を活用することで定着させることができる。 これまでに学習した小説の知識を活用して、小説を分析し、評価することができる。 小説の読解について、話し合いの内容をまとめて発表する方法を活用し、聞く態度を正すことでより深い理解をすることができる。 読後感想文を通じて、考えの根拠を持って論理的に文章を書く方法を活用し、自己表現ができる。 以上のことに関心を持って意欲的に取り組むことができる。	
1		4		③ ①		
2		6				
3		4				後期期末調査
		計 78				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は話す・聞く能力、③は書く能力、④は読む能力、⑤は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。